

平成 28 年 9 月 8 日

麻疹(はしか)の予防について【特に 26 歳～30 歳代後半の教職員の方へ】

奈良教育大学保健センター

本年 8 月下旬から関西国際空港で麻疹(はしか)の集団感染があり、また泉佐野の大型商業施設や幕張メッセにおける大規模コンサートに感染者が訪れていたことも確認され、関空から全国への感染の拡大が懸念されています。

日本は昨年 3 月に、土着の麻疹ウイルス株は排除されたと WHO に認定されましたが、外国からのウイルス株が入って来る可能性はまだあります。

麻疹ウイルスは感染力が大変強く、手洗いやうがいでだけでは感染を予防できません。免疫を持たない人が麻疹の患者に接触すると、ほぼ全員が麻疹を発症します。

麻疹ワクチンは 1978 年から定期接種となりましたが、1 回の接種では十数年経過すると抗体価が低下する例が知られるようになり、2006 年 4 月から 1 歳時と就学時の 2 回、定期接種が行われるようになっていました。しかし、2007 年に 10 代～20 代の人を中心に麻疹が流行し、本学でも全面休講措置をとり学生の抗体価を測定した経験があります。2008 年度から 2012 年度の 5 年間、移行措置として中学 1 年生と高校 3 年生の年齢の人に追加で 2 回目の定期接種が行われました。

この取り組みに間に合わなかった、26 歳以上の世代(1990 年 4 月 2 日以前に生まれた人)～30 歳代後半の方に関しては、麻疹の予防接種を任意接種として各自で受けることが推奨されています。一方、40 歳以上の世代は定期接種でワクチンを接種する機会はありませんでしたが、多くの方が自然感染しているため比較的风险が低いと考えられています。

本学学生に対しては 2007 年の流行を受け、入学時、麻疹に対して免疫を持つことを証明する書類を必ず提出するように徹底していますが、教職員(特に 26 歳～30 歳代後半の方)で、これまでにワクチンを 1 回しか接種されていない方は、抗体価が低下していて、容易に感染・発症する場合がありますので、接種を希望される場合は、最寄りの医療機関(内科)にご相談ください。

なお、一度麻疹を発症した経験がある方は、ワクチンの接種歴の有無にかかわらず、十分に強い免疫があると考えられますので、改めて接種する必要はありません。